

若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る地元代表協議会 第2回協議会 議事要旨

1 日 時 令和7年12月2日（火） 18時30分～20時20分

2 会 場 若松台小学校 図書室

3 出席者

- (1) 委 員 13人
(2) 事務局 6人 企 画 課 望月課長、塚田課長補佐、福田主任管理主事
石垣管理主事、森管理主事、遊間主任主事
(3) 傍聴者 14人

4 報告・協議

- (1) 【報告】各団体より
(2) 【協議1】第1回地元代表協議会内容を受けて
(3) 【協議2】学校適正配置（案）に係る課題及び留意点について
(4) 【その他】諸連絡について

5 会議資料

- (1) 若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る第2回地元代表協議会資料

6 議事の概要

- (1) 【報告】各団体より
・第1回地元代表協議会や学校適正配置（案）の内容を受けて、若松台小の保護者及び若松台地区に在住する地元の方々から寄せられた意見や質問内容について報告された。
- (2) 【協議1】第1回地元代表協議会内容を受けて
・若松台小の学校規模に係る取組みについて、寄せられた保護者の声について報告された。
・学校規模改善に係る適切な手段は何かについて協議がおこなわれた。
・学校規模を適正化するための手段として、「通学区域の変更」や「四街道市からの児童受け入れ」については、実現性・実効性の面から困難であることが確認された。
・「学校適正配置（案）を受け入れる」、「学校適正配置（案）を見送る」の2つに集約してきた。
- (3) 【協議2】学校適正配置（案）に係る課題及び留意点について
・事務局より、学校適正配置（案）に係る課題や留意点について示され、協議がおこなわれた。
・委員より提案のあった学校適正配置（案）を見送った場合の「分校（案）」については、事務局にて持ち帰り、検討することとした。
- (4) 【その他】諸連絡
・第3回地元代表協議会開催を令和8年1月に開催することが承認された。

7 発言要旨

(1) 開会

- 〈司会〉 ただいまより「第2回若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る地元代表協議会」を開催する。
本日は、旧コミュニティ懇談会副会長欠席。会長にご一任いただくとのこと。
次に、本協議会の会長よりご挨拶いただく。

(2) 会長挨拶

- 〈会長〉 本日はお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げる。
本会の会則にあるように「子どもたちの教育環境の改善を中心に据え」焦点を絞って協議を進めていきたいと思う。
子供の成長に大切な小学生の時期を1学年6, 7人になるという環境で過ごすことが子どもたちの幸せな学校教育につながるのか、といった観点からだけでなく、この町の在り方も含めて議論できればと思う。

(3) 次第

【報告】 各団体より

- 〈議長〉 まず、「1 各団体より報告」について事務局に説明をお願いする。
〈事務局〉 **【前回の概要を説明】**
前回の協議会において、若松台小の保護者の皆様の意見が知りたい、という意見があった。このことを踏まえ、若松台小のPTAと共に11月に意見交換会を3回実施した。昨年度の3回と合わせて計6回の開催となる。11月の意見交換会では延べ9名に参加いただき、たくさんのご意見・ご質問をいただいた。
意見交換会では統合に不安をお持ちの方、統合に反対の立場の方の意見が主であった。内容としては、「通学距離に係る不安について」「通学に係る暑さについて」「防犯対応について」「グラウンドや体育館の今後の取り扱いについて」「地域コミュニティ面について」「四街道市との通学に係る協議の状況について」などの意見交換を行った。また、「現状問題は感じていない」「若松台小は小規模校としての良さがある」「4年生まで若松台小で学ばせるという分校案について」などについても意見交換を行った。
就学時健康診断においては、未就学児をもつ保護者へ現状の報告を行い、合わせてご質問・ご意見をいただいた。内容としては、「通学距離に係る不安」「若松台小がなくなることによる若年層の転入等」「地域づくりの面に水を差すのではないかといった不安等」が寄せられた。
さらに、企画課へのメール4通を受領した。内容としては賛成・反対それぞれのお立場からのものであり、「いろいろな性格・考え方には接しながら多くの仲間に触れてほしい」「統合の方向性は理解するが、令和9年4月の統合は早急すぎる」「通学路の安全に係る不安について」「アフタースクールや学級編制についての質問について」「継続的な地元説明会開催を求める」ことなどが寄せられた。
また、市長への手紙2通（内1通は、6世帯13名の連名）も寄せられた。

市長への手紙においては、「保護者・地域の意見を反映してほしい」「傍聴人にも発言をさせてほしい」などの意見が寄せられた。

教育委員会が一方的に話を進めようとしているという印象を与えてしまったことについてお詫び申し上げる。事務局として真摯に受け止めて今後の運営に生かしてまいりたい。

事務局としては統合の結論ありきではない。事務局としての意見をお示しするが、統合という結論を得なかつた地域もある。学校規模改善の方策として統合という手段をとるかどうかという点については、協議においてご判断いただきたいと考える。

〈議長〉 次に、ほかの団体からの報告はあるか。挙手をお願いする。

〈若松台1丁目〉 地域の住民から意見をいただいた。

自 治 会 長 〔次の内容を報告〕

- ・地元説明会では「まだ方針が決まっていない」との教育委員会の話しだったのに、統廃合が急速に現実味を帯びて進んでいる現状に、統合はまだ先の話と思ってた、もう統合する段階と聞いて驚いている
- ・地域のなかでの意見交換の機会が十分になく、このままでは地域の意向が適切に反映されないのでという不安がある。
- ・一人一人意見を聞けば恐らく半数以上は反対だと感じたのですが、声を上げる人がいないため、それをよいことに教育委員会は議論をどんどん進めているように感じ、その点が納得できない。
- ・地域全体で認識を共有しないまま議論が進むことは避けるべきではないか。
- ・保護者の意見を吸い上げる仕組みが無い状態で、次の協議会でまた一段進んでしまうのではないかと不安。
- ・保護者間で議論する場がなく、このまま反対派が声を上げることなく廃校が決定してしまうのではないかと心配。
- ・就学前の子どもがいる家庭に対して、教育委員会担当者より、意見があればPTAを通して下さいと言われたが、入学前の保護者がPTAとコンタクトを取る事は難しい。
- ・周知・日程調整が不完全なまま、結論ありきの議論が進められているように思う。もっと時間をかけて慎重に議論を進める必要があるのではないか。
- ・高齢者の多い地域であるにも関わらず、市のホームページに依存した情報公開となっており、現状を正しく認識できている住民がどれほどいるのか懸念している
- ・拙速な統合に反対し再検討を求め、統合以外の改善策を提示して頂きたい。
- ・地域の子どもたちの安全、学習環境、通学距離の増加、通学路の安全面の懸念、地域コミュニティの維持の観点から拙速な統合には反対。

加えて、廃校となった場合の地域への影響について以下の部分に対する不安

・防災面への影響

小学校は災害時の避難所としての役割を担っているが、廃校後もその機能が維持されるのか不透明であり、施設管理が行き届かない場合、緊急時に十分な機能を果たせないことも懸念。

・廃校後の活用方法と治安の悪化リスク

施設が放置されれば、景観の悪化や不法侵入など、防犯上の問題が生じる可能性がある。地域の中心にある建物だからこそ、責任ある活用方法が必要と考えられる。

・土地の再利用に関する不安

取り壊しや売却となった際、地域の生活環境に配慮した活用がなされるのか不安。広大な土地であるだけに、住民の意向を反映せずに企業利用が行われれば、環境悪化につながる恐れもある。

・地域の魅力の低下による人口減少

小学校は地域の象徴でもあり、子育て世帯が移り住む理由のひとつである。廃校となれば、転入者の減少が進み、さらに地域活力が失われる可能性があると考えられる。

また、現在、地域内でも代替わりが進み始め、若松台地区の住宅の立て替え等の増加により、教育委員会資料の児童数予測を上回る可能性が高い。

・地域の学校がなくなることで生じるコミュニティの衰退

現在様々な団体がグラウンドおよび体育館を使用しているが、使用できなくなるとしたら、活動が制限されてしまう。

〈事務局〉 地元の意見吸い上げについて感謝申し上げる。

「統合ありきの議論」というご意見については、そういった印象を抱かれるような進め方をしてしまったことについて申し訳なく思う。ご不安をもたれることがないようにはっきりと協議を進めていきたい。

「未就学児の保護者は意見があれば PTA へ」という説明ではなく「ご所属の団体・または直接事務局へ」との説明を行っており、その観点から、本協議会にも全町内自治会長に委員としてご参加いただいている。誤解を招いたことについてはお詫びする。

その他の意見については、この後の説明の中でも回答させていただきたい。

【協議 1】 第1回地元代表協議会内容をうけて

〈議長〉 次に、「2 第1回地元代表協議会内容をうけて」について、事務局に説明をお願いする。

〈事務局〉 【資料に沿って説明】

〈議長〉 前回の協議会における委員の方々からの意見等をうけ、事務局より若松台小保護者の意見等について報告された。

また、学校規模を改善する別の手段が紹介された。

事務局からは、①学区の変更、②統合、③四街道市からの受け入れ、④その他、統合しない、という4案の提案があった。その点についてこれから協議する。

協議会の設立の目的である「若松台小学校に通う子どもたちのより良い教育環境づくりのためにどうしたらよいか」という趣旨に沿ってご検討いただきたい。

まず、学校規模改善の手段①通学区域の変更について確認する。この手段については、事務局より「学校規模の適正化にはつながらない」「現実的な選択肢にはなりえない」といった説明があった。このことについて意見・質問はあるか。

手段①通学区域の変更について、学校規模改善の手段としては難しいということだが異論はあるか。

〈委員一同〉 (異論なし)

〈議長〉 特にないようなので、手段①については、実現性・実効性から、難しいということを整理したいと思う。

また、別案として新たに手段③、四街道市からの児童受け入れについての説明があった。四街道市・千葉市ともに要望の予定はないということが示された。併せて、実現した場合の児童数のシミュレーションも示された。このことについて意見・質問等はあるか。

〈若松台小PTA会長〉 四街道市からの児童受け入れについて、個人単位ではなく、自治会単位で要望があるて初めて検討するという認識でよいか。

〈事務局〉 そのような認識でよい。前回の地元代表協議会後に四街道市に問い合わせを行い、現状を聴取した。四街道市からの児童の受け入れ要望について、千葉市及び四街道市ともに個人単位、自治会単位の相談や問い合わせは特に寄せられていない。

シミュレーションについて、「四街道市の子どもの一部を若松台小で受け入れたら」という想定で計算したが、いずれにしても各学年2～5人増加する程度となってお

り、規模の改善にはつながらない。

〈議長〉 手段③四街道市からの児童受入れについても、学校規模の改善の手段としては難しいということだが、異論はあるか。

〈委員一同〉 (異論なし)

〈議長〉 特にないようなので、手段③についても、実現性・実効性から、難しいということを整理したいと思う。

続いて、統合する、しないの検討の前に、「分校案」が若松台1丁目自治会会長より提案がされたので説明をお願いしたい。

〈若松台1丁目〉 分校案について説明させていただく。

〈自治会長〉 若松台地区の地域特性・通学環境・将来人口動向を踏まえ「分校方式」が最も合理的であると考えている。

地域特性としては、通学距離に偏りが生じやすい地区であり、地域コミュニティが強固であるため、教育支援力が高い。また、若松台小の校舎は今後十分に利用可能である。

統合した場合には通学距離が延びることによる安全性の低下、地域防災拠点としての機能の弱体化、地域コミュニティの弱体化、人口増加した場合のリスクなどの課題があげられる。その一方で分校案は、通学環境の維持、安全性の確保、また、将来人口の変動（※）への対応が可能であるだけでなく、市の「既存施設活用方針」とも合致するといった合理性がある。

こういったことから、統合でなく分校方式が最も適切な選択肢であると考える。

※若松台地域では、直近10年間、(建築)完了検査件数が毎年10～20件程度を推移していることから、新規住民の流入が一定程度続いていることが想定される。

〈議長〉 現実的な選択肢としては、事務局案である②統合、または④統合を選択しない、これに加え、新たに提案があった分校案の3択に絞られてきた。

〈事務局〉 分校案について貴重なご提案感謝申し上げる。教育委員会の見解をお示しさせていただく。今回のご提案を受けて若松台地区に毎年20件の住宅開発があり、人口が増加する、として試算したが、R13年度の全児童数でいうと、42名から68名と増加するものの、やはり減少傾向は変わらず、規模の改善までには至らないようだ。

こういった状況を踏まえたうえで「統合しない」という選択肢もあるかとは思う。

〈議長〉 ここまで協議をまとめると、若松台小の児童数が今後も減少していくことについて、学校規模を適正化するための現実的な選択肢としては、統合しかないということが確認された。

しかしながら、こういった状況を理解したうえで、統合という手段を選択しない、もしくは分校案という結論もあると思う。事務局の見解はいかがか。

〈事務局〉 選択肢が絞られてきたことについては感謝申し上げる。

繰り返しとなるが、事務局としては、子どもたちのより良い教育環境を提供するため、統合を提案しているが、結論ありきではないことはもう一度確認させていただきたい。「統合する」「分校とする」「統合しない」どれを選択するのか、それぞれの利点、課題をご理解いただいたうえでご協議いただきたい。

〈若松台3丁目〉 児童数が年々減少するという数値はどういったデータに基づいて算出しているの

自 治 会 長) か。転入してくる家庭の数値は考慮しているのか。

また、アンケートについても 81名中 20名が回答しているようだが、残りの 61名については追跡調査しているのか。ここを調査しなければ保護者の意見を反映しているといえるのか疑問である。

〈 事 務 局 〉 推計は住民基本台帳に基づいて毎年算出している。例えば、来年度の 1年生においては、若松台小学校に居住する 5歳の人口から、また、令和 13 年度の 1年生については、0歳児の人口に基づいて算出している。なお、この推計には住宅開発を伴わない転出入は考慮していないが、開発があった場合には、それに伴う転入は考慮している。アンケートについては、我々もあくまでも今頂いている情報、これまでの傾向についてお示ししただけであり、これをもって保護者からの意見の総意とする考えはない。当該アンケートは地元説明会の際に「意見・質問があればお寄せください」とした中で回答いただいたものである。任意の回答ではあったが多くご回答いただいたものと認識している。

【協議 2】 学校適正配置案に係る課題及び留意点について

〈 事 務 局 〉 【資料に沿って説明】

〈 議 長 〉 事務局の説明を受けて、意見・質問等はあるか。委員の皆様より「統合」「分校案を含めて統合しない」という 2案について幅広くご意見等をいただきたい。

〈 若 松 台 小 学 校 P T A 会 長 〉 学校教育審議会の議題をホームページで確認したところ、昨年度、小規模校に勤務する教員にアンケートを実施した旨の記載があった。そのアンケートの結果について共有いただきたい。また、その内容についてどのように考えているかお伺いしたい。

〈 事 務 局 〉 小規模校の管理職を対象に実施したアンケートである。

例えば「教員個人の力量への依存度が高まる」「教育活動が人事異動に過度に左右される」「教員数が毎年変動することにより学校計画が不安になる」といった項目について、小規模校であると「そう思う」「少しそう思う」と回答する割合が非常に高くなかった。小規模校にて担任を持っていた教員が異動した際に子どもたちの教育環境が大きく変わってしまうといったことは事実としてある。

自分自身も小規模校の勤務経験があるが、適正規模校と比較して小規模校の各担任に求められる力量は高くなると感じている。というのも、複数の学級がある学校においては、経験の浅い教員が学年主任や先輩の教員へ相談できるし、各学年がチームとして取り組むことが可能である。単学級である小規模校においては、そのような対応が困難である。他学年の教員はいるが、力を借りることは難しいことから、教育活動がうまくいかないという事例もある。そういう点は小規模校の課題として認識している。

〈 若 松 台 小 学 校 P T A 会 長 〉 子どもたちが生活していく以上、教員の影響があるのは当然である。自分の経験だとトラブルが発生した際には、その解決にも教員個人の力量に依存している部分が大きいと感じている。アンケートでは単学級の場合は学年主任レベルの指導力が必要という意見もあり、教員にとっても指導が難しい状況が続いていることが子どもたちに良い影響を与えるとは思えない。

〈 若 松 台 小 学 校 外 指 導 〉 前回も意見を出したが、6年後に複式学級になってしまうという状況が子どもの学びの場として本当に適正かどうか。親としては通わせたいとは思うが、保護者のアン

ケート（学校規模の改善に向けて何らかの取組みの検討を進めていくことについて）の中で賛成65%、反対が35%という状況である。不安を抱えている保護者の方々に理解をしていただくという場がまだ少ないのでと感じる。また、未就学児の保護者の方に現状を理解してもらえるような協議の進め方をしていただきたい。

〈議長〉 前回の協議会以降で保護者の方から話し合いの場や説明会等を求めるような声はあがったのか。

〈若松台小PTA会長〉 第1回地元代表協議会をうけて、保護者の方々の意見を聞くことや、学校規模改善に向けた取組みの理解を深めることを目的に意見交換会を実施した。アンケートについては、取組みに係る保護者の理解が深まったうえで実施することが有効であると感じる。今後の実施を検討したい。

〈事務局〉 学びという観点で意見をいただいたが、第1回地元代表協議会においても「小規模校における学力についてはどうなのか」という質問をいただいた。学力については様々なものが関与しているので、一概に学校規模と結びつけることはできない。

保護者からは「若松台小の卒業生は色々な役割をこなすチャンスが多かったため、中学校で活躍している」という意見もあった。一方で、教員側（小規模校勤務）から「指導の手立てが限られる」という意見があるのは事実である。グループを変えたり、隣のクラスと交流したり、様々な意見に触れたうえで議論したり、といった手段が限定的となってしまうことがある。通学路のような問題は「目に見える課題」であるが、こういったことは「目に見えない課題」となる。「目に見える課題」となったときにはすでに子どもたちが困っているという状況といえる。我々としてはそのような状況になるまで待つことはできないという考え方である。

〈若松台1丁目自治会長〉 以前に若松台幼稚園で説明を実施するという情報があったが、その他の幼稚園や保育園については話をしたのか。幼稚園等の保護者の末端にまで話が行き渡った確認はしたのか。

〈事務局〉 若松中学校区のすべての幼稚園・保育所に電話したうえで、資料の説明・掲示等をお願いした。保護者が全員把握したのかまでは確認していない。

〈若松台1丁目自治会長〉 仮に「統合しない」という結論が出た場合には、数年後に再び統合を検討することはあるのか。

〈事務局〉 一旦「統合しない」という結論が出た地域において、数年後に実際に複式学級が生じたことで保護者から意見を頂き、再協議後に統合をしたという実績はある。

仮に今回の結論として「統合しない」という形になったとしても、引き続き保護者等の意見には耳を傾けていく。

〈若松台1丁目自治会長〉 若松台小に現在あるライトポートについては、統合決定後に移転先を決めるとのことだが、移転先が見つからなかった場合には数年間若松台小に残ることもあるのか。

〈事務局〉 具体的に次の移転先が決定しているわけではないが、若葉区を対象としたライトポートとなるため、若葉区内のほかの学校に移転することとなる。ライトポートとしての支援に切れ目が生じないよう、移転先の検討を含め、準備をしている。

〈若松台1丁目自治会長〉 統合校安全指導員は市から派遣されるのか。現在ボランティアで行っているセーフティウォッチャーは人数に限りのある状況であることから、統合校安全指導員を務めることができる人はいないのではないか。

- 〈事務局〉 統合校安全指導員というのは、ボランティアではなく、1年間という限定的な期間とはなるが、若干の報酬をお支払いしたうえでお願いするものである。地域にお住まいの方と相談しながら取り組んでいくこととなる。人選は若松台小、若松小両校において決定していく。
- 〈若松台1丁目〉 統合1年目の子どもたちは安全対策をしないまま通学することにならないか。
- 〈自治会長〉
- 〈事務局〉 統合準備期間の令和8年の夏頃に点検をして、原則として統合校開校前に改善を図る。ただし、具体的にどのように改善するのかについては警察等の管轄となる。事務局としては統合に間に合うように要望していく。
通学路は資料スライド12、赤の点線を想定している。3丁目については2キロを超えるため、不安を抱えるのはやむをえないと考えている。
- 〈若松台1丁目〉 統合後の跡施設としての活用例にはどのようなものがあるか。
- 〈自治会長〉
- 〈事務局〉 例えば、千城台西小では、一部を保育所の移転用地として活用、それ以外は土地を売却し戸建て住宅が建設中である。千城台南小では、一部を民間保育園に、それ以外は現状空き地であるが、公民館、図書館、高齢者施設などを移転集約する形での活用が予定されている。跡施設は、地域の方と相談したうえで活用・運用されている。
- 〈若松台1丁目〉 子どもたちのためというのはあるが、地域のことも考慮してほしい。また、未就学児をもつ保護者の方の声が入ってきていないことを懸念している。地元説明会を開催するにあたっては、自治会から要望するのか。教育委員会から提案があるのか。
- 〈事務局〉 自治会単位で要望があれば、説明に伺う。地元説明会開催については検討する。
- 〈若松台1丁目〉 教育委員会としては今年度中に統合の結論をだしたいのか。
- 〈自治会長〉
- 〈事務局〉 教育委員会としては、学校規模の早急な改善が必要という立場である。令和9年4月統合校の開校を目指すのであれば、今年度中に結論付けることが望ましい。
- 〈若松台2丁目〉 通学に係る安全面について、資料スライド20の写真の位置ではなく、この手前にある歩道は人が1人通れるか、というほど狭い。非常に危険である。ここは30年くらいこの状況である。すぐに改善されるとは思えない。改善されない場合は、通学路としてあり得ない。その場合はバス通学や分校とするべきだと考える。
- 〈若松台3丁目〉 分校という案が出て、いいなと思った。自治会における役員会では協議情報を展開しているが、未就学児をもつ保護者の声は入ってこない。また、会員でない方々に情報を届けることができない。どうやって情報を届けるか悩んでいるところである。
- 〈議長〉 たくさんの意見が出されたが、本協議会の内容を各団体へ報告していただきたいと思う。そして、次回協議会に向け、各団体の皆様の声の吸い上げや、意見のとりまとめをお願いしたい。協議のまとめとして副会長と会長に発言いただきたい。
- 〈副会長〉 本協議会において、「統合する」「統合しない」といった選択肢が2つに絞られた。事務局には次回協議会に向けて協議が深まるような準備をお願いしたい。
- 〈会長〉 本日は、遅い時間まで活発な協議に感謝申し上げる。長距離の通学を心配し、統合反対の保護者もいる。小学生は年齢的にも交通事故が最も危ない時期である。仮に統合となった場合には2,3年間は交通事故防止に係る取組みを実施する必要があるだろ

う。事務局も委員の皆様におかれても「若松台小の子どもたちにとってより良い教育環境とは何か」という本協議会の目的に立ちかえり、第3回地元代表協議会に向けての準備を進めてもらえるようお願いする。

〈議長〉 ここで、本日の議長の任を解かせていただく。

その他 諸連絡について

〈事務局〉 次回第3回地元代表協議会は1月の開催を提案する。

次回地元代表協議会に向けて各団体の声を吸い上げていただきご報告いただきたい。第3回地元代表協議会は、「統合する」「統合しない」についてより深い協議をいただき、可能であれば一定の結論を得ることができると考えている。そのために各団体に本協議内容についてご報告いただくとともに、声の吸い上げや意見の取りまとめをお願いする。

(4) 閉会

〈司会〉 以上で、「若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る地元代表協議会」を閉会する。